

# ステークホルダー・エンゲージメントプログラム 2019 in TOKYO

## 参加者ご感想

CAUX  ROUND TABLE

# ステークホルダー・エンゲージメントプログラム2019 in TOKYO

## 概要

【日程】 第1回 5月20日(月)、第2回 6月13日(木)、第3回 6月20日(木)  
第4回 6月27日(木)、第5回 7月04日(木)、第6回 7月18日(木)

【内容】 業界毎に重要な人権課題の特定  
(人権デューデリジェンスワークショップ)

【NGO, NPO団体および有識者による人権課題提起】 14 プレゼンテーション

【ご参加企業数】 25社

【ご参加者数(エントリーベース)】 59名

主催: 日本CSRコンソーシアム / 事務局: 経済人コーポラ卓会議日本委員会

# 参加者ご感想1（抜粋\_ご登場順）

## ◆ 森恵美子様（中外製薬株式会社）

人権の問題については、世界にさまざまな問題があることは承知していて、項目についてはよくわかっているつもりでしたが、今回プログラムに参加することによって、NGOや有識者の方から直接、その項目の中のどこが問題なのか？ということをお教えいただき、非常に気づきの多いプログラムだったと思いました。

## ◆ 橋本晃樹様（森永乳業株式会社）

今まで気づけなかった潜在的な課題があるということがわかり勉強になりました。課題があるということはネガティブな面もありますが、それに正しく取り組み、今回講義していただいた団体の方のお力もお借りして一つ一つ課題をクリアしていければと思っています。

## ◆ 中谷智史様（ナクシス株式会社）

非常に気づきが多かったです。自分たちがやっているビジネスの中で、意外なところで人権につながっている、という気づきがあったり、グループディスカッションを通じて知ることができた、他社様の人権に関する意見なども参考になりました。まだまだ人権に関して気づけていないところもあると思うので、これからもいろいろなところを参考にさせていただきたいと思います。

## 参加者ご感想2(抜粋\_ご登場順)

### ◆ 潮田繭子様(株式会社コーセー)

普段から漠然と人権について考える機会があったのですが、今回、このように業界内で、また業界の枠を超えて、しっかりと人権について議論をして棚卸できたことは、非常に大きな成果となりました。今後は会社に持ち帰って、課題を一つ一つクリアしていければと思います。

### ◆ 熊谷謙一様(日本ILO協議会)

大変勉強させていただきました。特にCSRにおいては、ステークホルダーエンゲージメントが一番の鍵であるものの日本ではなかなか普及していない中、このプログラムがその入り口としての役割を果たしていることがよくわかりました。エンゲージメントというのは抜き差しならない関係ということですので、より深いエンゲージメントにしていけることを期待しています。特にビジネスと働き方というのは今後、世界中で大事なことになってきますから、その分野でも持続的なエンゲージメントがよい形で進むことをILO協議会として期待しています。

# 参加者ご感想3(抜粋\_ご登場順)

## ◆ 伊東佳行様(三井化学株式会社)

ここ何年か続けて参加させていただいていますが、毎年、NGOや市民社会の皆様から新たな課題が提起され、その都度、人権に対する考え方が新しくなる、付け加わるという経験をさせていただいています。また、業界の方と話すことを通じて、提案された人権課題が自分たちの業界にどのような関係があるか？を深く考えることができ、とても有意義だと感じています。

## ◆ 吉岡かおる様(ヤマハ株式会社)

自社の中にいただけでは気づけない、いろいろな気づきを与えてもらいました。ワークショップの中では、同じ悩みを抱える皆さんと課題を共有できたことで非常に心強く感じ、これから人権の取り組みを頑張っていこうという気持ちが一層強くなりました。

## ◆ 三柴淳一様(国際環境NGO FoE Japan)

素晴らしい成果物をつくりあげたかと思しますので、ぜひそれを社内にお持ち帰りいただき、すぐにアクションをとっていただけたらと思います。期待しています。

## 参加者ご感想4(抜粋\_ご登場順)

### ◆ 大橋弘廉様(ANAホールディングス株式会社)

通常の企業活動の中では人権課題は非常に見えにくいものだったが、たくさんの団体の話を聞くことで、一つ一つ我々の事業にどう関わっているか？どういうリスクがあるか？を把握することができました。非常に視野が広がるいいエンゲージメントだったと思います。

### ◆ 古谷由紀子様(サステナビリティ消費者会議)

ステークホルダーエンゲージメントプログラムは、まずステークホルダー側からの問題提起があって、それを企業の方が多くの業界内外の方と話し合っって検討していく、というのが素晴らしいと思っています。さらに検討結果についてパブリックコメントも得たうえで最終的な報告書にされると伺っていますので、ますます発展していくといいと思っています。ステークホルダー側からは、さらにステークホルダーにフィードバックしていただき、さらにまた発展していくことを期待しています。

## 参加者ご感想5(抜粋\_ご登場順)

### ◆ 本田健司様(野村総合研究所)

現時点では救済メカニズムについて非常に気にしていたのですが、それがどの会社さんでも今、気にされていて非常に重要なポイントであることを再認識できたのが非常に良かったです。また、AIやIOTなど新たなデジタル化が進む流れの中に人権問題が潜んでいるという点について、具体的な事例を通じていろいろ教えていただき、非常に興味を持ちました。LGBTについてはまだよくわからないものの、知らない考え方があるということを認識させていただきました。

### ◆ 星野俊彦様(富士フイルムホールディングス株式会社)

このプログラムには毎回参加していますが、いろいろなプロフィールをもった新しい方が参加されていて、今回は課題定義をしたり、法務部という背景の方からもっとストーリーをもって、とか、あるいは統一的な表現をしよう、だとか、海洋プラスチックについて話し合おうなど、新しいことに取り組んでいく、それをふまえて見直す、これが繰り返されることで非常に深まってきたと感じています。また新しい方がこられて、新しい視点が加わることで、さらにブラッシュアップをしていきたいと思っています。